

グラウンドのバイソン

動物園ノススメ

画と文・國田祐祐作

行き詰ったら動物園に行け、という説が絵かきや物かきの間にある。動物や鳥たちを眺めていると仕事のヒントが見つかるものだという先輩たちの教えである。

私たちの学校は動物園に隣接していた。絵の工具箱を担いで動物園の柵沿いに歩くのが毎朝のコースであった。キツネとタヌキの檻は外からでもよく見えた。彼らはハツカネズミがよくやるように自分たちの輪まわしに熱中していた。走れば走るほど輪は勢いよく廻るが自分の位置は変わらない。ときどき通りがかりの人の顔を見るために止まる。そんな時、彼らは「ムダナ努力、ト言イタイムデショ」という表情でこちらの機先を制するのである。

正午は給餌の時間だから、相前後して食事をねだる声がいっせいに起こる。なかでもオットセイの声が私たちのアトリエによく響いた。物マネの上手な学生はアウーッ、アウーッといっしょに吠えた。私たちも充分腹を空かしていたから、それは痛切にこたえた。

動物園にも人気者のいる銀座通りと目立たぬ裏道とがある。カワウソは裏道の方に住んでいたが、ちょっとした芸をする。そばに座っているオバサンに小銭を渡すと、ドジョウを五匹ほど呉れる。そいつを一匹ずつブリキの筒から流してやるとカワウソは空中で素早く呑みこんでしまう。それが面白いのだが、何しろ裏通りの悲しさ、客が少いからお代わりがなかなかやっこない。カワウソはブリキの筒を手でかかえ、片目をあてがって来ないドジョウを覗くのがクセになってしまった。だからこのカワウソの片っぽうの目にはパンダのようなくまどりがついていた。動物を生態に近く見せるという方針かどうか知らないが、いつの頃からか、こういうショウ的なものは姿を消してしまった。すなわち、連中はおおむね、眠ってばかりいるようになった。それでも、動物園には何かに出会う楽しみがある。出かけるのに必ずしも行き詰る必要はない。

(くにた・ゆうさく 教養部教授・芸術論)

新図書館生活の6ヵ月とライブラリズムの創造

……宮殿での6ヵ月

嵐のように混みあった9月が終わるとすでに初冬。10月6日で、あたかも『宮殿』のごとき趣のある図書館生活もすでに半年が過ぎさろうとしている。

この間の図書館の動きを追ってみよう。

まずなによりも大きく変わったのは開架フロアーのスペースが格段に広がったことだ。それと共に、旧図書館時代にはせいぜい数千冊だった開架図書が今では3万6千冊になった。1階のフロアーには法律、経済の専門図書を中心に、辞典類と共に1万5千冊強、3階のフロアーには人文、自然、絵画、文学書などの図書と文庫、新聞の縮刷版など2万1千冊が配本された。

直接、本にふれる機会が増大した結果、当然利用された本の冊数は急増した。昭和56年度の1年間で1万2千冊強だった館内での閲覧冊数は、今では統計をとりはじめた6月からの4ヵ月間だけで、かつての1年分を上まわる1万5千冊に近づいている。これはおそらく4倍の増加となるだろう。

次に変わったのは、未手続で持出される本がゲイトでチェックされる仕組みになったことだ。これによりかつては不明本が続出し、今でもその後遺症に苦しんでいるが、少なくとも本が失われるという可能性は100%なくなった。

しかし、こうした処置への警戒感からくるのだろうか、貸出冊数はそう大きな伸びは示さず、逆に低下気味である。昭和56年度の貸出統計によれば、4月からの半年間の総数は3,867冊、この半年では3,433冊にとどまる。1日平均では昭和56年度の31.6冊に対して新館6ヵ月では26.8冊と約5冊の減である。

これはしかし、そう悲観したものではない。なぜなら学生諸兄が手にする本の機会が増えたことによる結果ともとれるからである。

地下の書庫には集密書架と共に伝統の誉高い北駕文庫、雑誌は1階1層と2層に和洋別、開架3階の上に続く中2層には閉架式の書庫としてのレファレンス文献。この層を今さらに開架スペースの拡大をめざして新しいロケーションが検討されている。4階1層と同2層には和と洋の図書が配架された。

館員たちはようやく求める資料がどこにあるかを自然に覚えるようになった。新しい環境になじむにはやはり半年を要する。大勢の入館者が入って来るのも館員のとまどいであった。この半年間に延べ9万人以上の入館者があったが、これは一日平均621人に達する。学生数7,000人として、一人月に2度は図書館を訪れた。

そのピークは試験開始日の9月17日であった。その日の入館者は2,145人、閲覧冊数も多く最高の509冊を数えた。

〈新館半年の主な指標〉

	入館者		貸出冊数		閲覧冊数 (返却台に載った本の数)	
	総数	一日平均	総数	一日平均	総数	平均
4月	13,126人	656人	609冊	30.4冊	—	—
5月	15,181	660	713	31.0	—	—
6月	19,022	731	822	31.6	4,317冊	116冊
7月	13,511	500	850	31.5	2,917	108
8月	3,070	118	222	8.5	630	24
9月	26,818	1,117	217	36.1※	6,786	282
計	90,728	621	3,433	26.8冊	14,650	142

▲一日平均最高入館者
2,145人(9月17日前期試験開日)

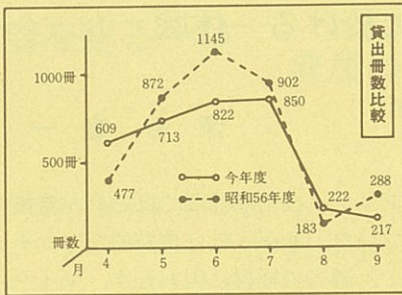
※開出日6日間
▲一日最高貸出冊数
82冊(春期最終貸出日)

▲一日最高閲覧冊数
142冊(9月17日前期試験開日)

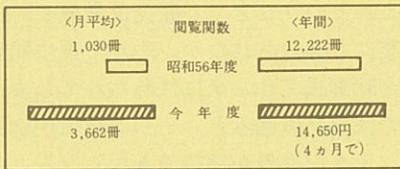
開架図書分類別構成

冊数()内は%

0 総記	1,100(3.06)	} 3階開架
1 哲学	2,108(5.86)	
2 歴史	2,549(7.08)	} 2階開架
3 社会科学	13,059(36.28)	
4 自然科学	1,500(4.17)	} 3階開架
5 工学	926(2.57)	
6 産業	1,284(3.57)	} 3階開架
7 芸術	1,189(3.30)	
8 語学	965(2.68)	} 2階開架
9 文学	4,723(13.12)	
※文庫など	4,471(12.42)	} 2階開架
※辞典	2,115(5.87)	
※他	12(0.03)	
総計	36,001冊(100)	



貸出冊数比較	昭56年度	今年度
4～9月累計	3,867冊	3,433冊
月平均	31.6	26.8



……「音・色・数・語」空間の創造

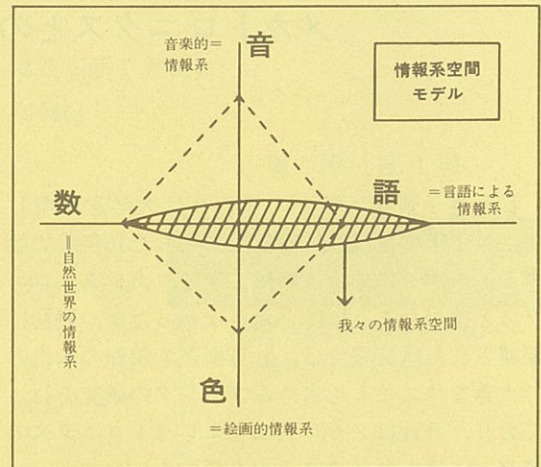
このように「宮殿」のごとき空間での利用はすこぶる快適ではあるが、しかし、まだ解決されなければならない課題もある。それを要約すれば、「建物」という器は整ったが、その内容、つまり「情報のバランス」が問題だ。

旧図書館時代に不明となった多くの図書を復元しつつ、不足している専門、一般の図書の増加を計りながらお新しい「情報系空間」の創造をめざしてはじめてこの「宮殿」を「文化の殿堂」にすることが出来る。

結論から言えば、今我々がもつ空間は「ゆがみをもつ空間」と指摘せざるをえない。それは理想の「情報系空間モデル」に比して。我々は情報系の元素を「音・色・数・語」の4つに大別出来ると考える。我が空間はこの中で著るしく「語」のみに偏してはいまいか。

我々は「音感の情報」もしくは「色彩的情報」といった立体感をもつ情報を新しい世代が要求している図書館のもう一つの姿と考える。

クラシック音楽やゆったりとした絵画のある空間の創造はそこで何かが発見される場として必要なゆとりともみえる。我々はこのような情報系空間の創造を次の新しい目標として設定したい。



……ユリイカの森へ

もう一つの試みはライブラリアンのシステムの変革に求められよう。従来あったライブラリアンのシステムは「総務・図書・閲覧」といういわば「三角形」をなしていた。新しい時代の要請に応える図書館のシステムはこれでは十分ではない。選書や学生諸兄の要求に敏感に対応出来る「レファレンス・セクション」の独立機能がどうしても求められる。かくしてライブラリアン・システムは「四角形」を形成し、活動の量は「倍增」するわけだ。

作家の井上ひさし氏は「ものを書く人間は農民から米を受けとるかわりに、我々はその代価として前線に出て世の中で今何が起っているかを知らせる義務がある」という。ライブラリアンの道も又これと同じだ。アカデミズムで起っていること、現実の世の中の動きを映すジャーナリズムの世界との双方に今何が起っているかを感じそれを学生諸兄に伝える必要がある。この日々の営みこそ「ライブラリズム」の道ではないか。

かつて古代ギリシャの「アレクサンドリア図書館」の館員だったアルキメデスは「比重の原理」を見い出して風呂から飛び出し「ユリイカ！ユリイカ！」と叫んだ。それはギリシャ語で「私は発見した」という意味だが、新しい図書館がこうした「ユリイカ」の森となるよう日々の営みをはじめよう。

メカトロニクスとの出会いに於ける一体験

深谷 健一

私と電子情報工学との係わりは大学を卒業して、NTTの電気通信研究所に入った16年前に始まる。大学での専攻は機械工学で、エレクトロニクスと接したことはほとんどなかったが、最初に配属された研究室では、計算機との情報の入出力で大きなウエイトを占めるプリンタの研究を行っており、それはメカニズムとエレクトロニクスの接点、メカトロニクスそのものであった。

その研究室ではそれまでに加入電信宅内装置（テレックスサービス用プリンタ）を開発しており、当時としては例を見ない大量の5万台が既にサービスに供されていた。ちょうど、全銀協システムなどのデータ通信サービスが開花期を迎え、小型、軽量、高信頼のプリンタ（印字速度20字/秒）開発が要請され、そのプロジェクトが進行中であった。採用されたプリンタ方式は定速回転する一個のモーターを動力源として、通信回線からくる符号に応じて、クラッチ、カム、ベルトといった機構要素を用いて間欠的に、文字選択、印字および紙送り運動を行う機械式であった。テレックス以来の技術蓄積を基に、この方式のプリンタとしての極限性能を狙ったプロジェクトであったが、多くの難しい問題を抱えていた。

入社早々の私も、印字機構部を担当したが、二重印字のトラブルに苦しみ、ようやく考案した補助機構を設けて、何とか解決することが出来た。他の担当者も数々の問題に悩まされながらも、一つ一つクリアして完成の目途が付き、みなほっとしている時、米国のDiablo社より、モータ制御式プリンタが発表された。アポロ計画の副産物である、強力な希土類磁石を組み込んだ複数個のサーボモータとそれを制御する多くの電子回路を用いて、プリンタ各部を直接駆動制御するものであり、印字速度は35字/秒と高速で騒音も低く、部品点数も少ないことから信頼性も高い機械であり、機械式プリンタで苦しんだ限界を楽々越えるものであった。モータ制御式プリンタそのものは一時期研究されたこともあったが、モータ性能の限界と回路の高価さから本格的な開発が見送られて来て

おり、プリンタ技術者仲間ではそれが常識のようになっていた。Diablo社は典型的なベンチャービジネスで、過去の経緯に囚われず、マイクロエレクトロニクス技術の動向からして必然と考えられる方法を大胆にとったわけである。我々の受けたショックは大きく、プロジェクト中断も噂されたが、機械式プリンタとしての最後の名機として完成させようということで、開発は最後まで続けられ、事業にも導入されたが、やがて後に開発されたモータ制御式プリンタに代わられてしまった。

技術の歴史を振り返ると、一つの技術が飽和状態に達し、大きな進歩が期待できなくなると、他の分野で発達した技術のブレイクスルーによってその限界を越えるのは、航空機、計算機など例にいとまがないのであり、このプリンタもその典型例であったのだと思う。しかし、我々は一つの技術に精通し、蓄積も多かったが故にそれに囚われ、隣接分野の技術に対する目配りが不足していた。

私はこのプロジェクト終了を契機に、有限要素法を用いる動的最適設計手法やマンマシンインタフェースの研究に方向転換したが、元の研究室では後追いではあったがモータ制御式プリンタの研究に着手し、数年を経過して、世界最高速度のプリンタを開発することに成功した。その後、プリンタ開発の重点は研究から生産現場での改良へ移っていったことにより、やがてその研究室も解散してしまった。ちなみに、現在の日本のプリンタは細かな改良技術の積み上げと大量生産に於ける高い品質管理により性能、価格とも外国製品を抜いて世界市場の過半数を制しており、貿易摩擦の原因の一つになっている。

以上、私が会社に入って初めて参画した開発プロジェクトでのいろいろと考えさせられる問題を持った事例を紹介したが、これから似たような体験をするであろう学生諸君に何かの参考になればと思う。

（ふかや・けんいち 工学部教授）

この本は、建築家のための“これだけは知っておきたい”シリーズの中で出版された小本である。“座屈”とは、“細長い棒や薄い板に対して縦方向に圧力を加えると横方向に変形を起こす現象”と広辞苑にある。ということを見ると、“座屈”とはあまり一般的な意味はなく、どうも我々構造屋の専門用語らしい。もう少し詳しく説明させて戴くと、構造物を支える部材にはいろんな荷重の作用の仕方があるけれども、その代表的なものは引張力と圧縮力である。部材が引っ張られる場合はロープのようにただピンと張って頑張っていればいい。しかし、圧縮される場合はそうはいかない。針金を思い浮べてもらえれば、これを引っ張ってもなかなか切れないが、圧縮するとすぐ曲がって荷重を支えることができない。また、薄い紙を考えてもらうと、これを破るためにはかなりの力で引っ張る必要があるが、圧縮すると全く抵抗なく変形する。このように、針金や紙が圧縮力を受けて横に変形することを座屈という。

構造力学とは、構造物がどこまで荷重に耐えられるかを解明する学問であるが、ある程度“人間力学”にも通じるものがある。“金属疲労”という言葉が最近の飛行機事故の原因として、耳にされた人も多いと思う。これは人間の疲労と同じように、小さな荷重でも繰返し作用することによりそれに耐えられなくなり、金属が破断することをいう。疲労という現象は、金属と人間の両方に共通の性質である。一方座屈に対しては、“挫折”というよく似た言葉がある。“挫折”とはくじけることと辞書にはある。人間があまりに大きな荷物を背負い過ぎてついにくじけて(挫折して)しまう、これは構造部材の座屈によく似ている。この時の人間にかかる荷重は、やっぱり上から載る力(圧縮力)に違いない。この点でも、構造力学と人間力学の共通点がある。“座屈と疲労”、この2つが科学の発達した現代においてもなお、構造物が壊れることの大きな要因になっている。飛行機が落ちるとたいい金属疲労が問題になるように、陸上の構造物が壊れるとたいい座屈が問題にな

る。これらはあまりに現象が複雑であり、影響を与える要素も多くその効果は微妙である。そして、それだけに専門家にとっては面白い。

最初、座屈の本を書きたいと思った時には、もっと高度な専門書を書くつもりであった。ところが出版社に相談してみると、今の世の中難しい専門書はなかなか売れなくて採算が合いませんと言う。それならばできるだけ平易に書きましようということ、座屈の“はなし”になってしまった。“はなし”と言っても口下手な小生にはなかなか上手な話はできなくて、舌足らずの面白くない、結局は専門家向けの本になってしまったと反省している。しかし、どっちみちベストセラーになって大もうけできる性格の題材でもなし、出版社が元をとってくれさえすればいい。出版されてもう1年以上にもなるが、その間どれだけ売れたか知らない。後学のためにそろそろ尋ねてみようかと思っている。

この本の第1著者は私の尊敬する元上司であり、私の運命を変えた人でもある。私を会社を辞めてアメリカに留学したのも、その結果こうして大学で教鞭をとっているのも、この人の影響のおかげである。もしもあのまま会社の仕事を続けていたら、今頃は企業戦士としてエキサイティングな闘いの中で、相変らず命を擦り減らして働いていることだろうと思う。人の運命とはちょっと後から誰かに押されるだけで変わるものである。

(とうま・しょうじ 工学部教授)



昔の新聞記事を 読んでみませんか

戦争末期より、占領、独占、復興と現在にいたるまでの生の記録ともいべき、新聞のマイクロフィルム版を下記の通り備付けました。

朝日新聞 21122-24388：昭20年～昭28年
25476-25837：昭32年1月～12月
26200-26561：昭34年1月～12月
26925-27288：昭36年1～12月
27649-28010：昭38年1月～12月
28736-29459：昭41年～昭42年

北海道新聞 790-6595：昭20年1月～昭35年12月
既に備付けしている冊子体の縮刷版と合せると、
朝日新聞：昭20年1月～昭62年8月＋
北海道新聞：昭20年1月～昭35年12月、昭42年
4月～昭62年8月＋

の所蔵となり、戦争末期のどん底より、いまやもう世界一・二位を争うほどの金持国へと我が国の歩んだ記録を知るための貴重な資料です。記事の内容はもとより、字面だけを見ても、旧仮名遣より、新仮名遣への移行、又、経済復興のきざしと共に物資の流通の良くなったことを示すが如くページ数の増、やがては夕刊の発刊等、活字を読むことなしにでも、多くの事を語ってくれています。まずは触れてみましょう。そして読んでみましょう。

(※北海道新聞は、開発研究所の所蔵です。)

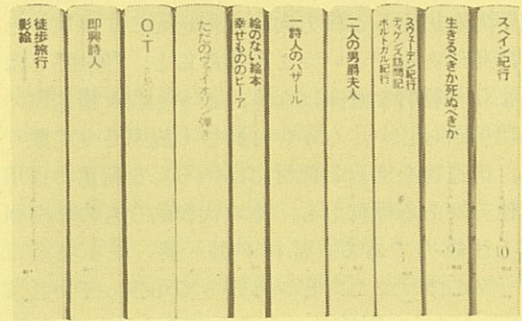
図書館には、朝日新聞の他に次の新聞の縮刷版も所蔵しております。

- 日本経済新聞 縮刷版
第3巻4号(23475号)：昭26年4月～昭62年8月＋(一部分欠号あり)
- 日経産業新聞 縮刷版
1巻1号(1)：昭48年10月～昭62年8月＋
- 毎日新聞 縮刷版
第4巻37号(27518)－第18巻210号(32768)：昭28年1月～昭42年6月、第37巻433号(39408)：昭61年1月～昭62年8月＋
- 読売新聞 縮刷版
329号(39340)：昭61年1月～昭62年8月＋
以上、古い記事を読み、現在を考えてみましょう。

新刊抄

アンデルセン小説・紀行文学全集 全10巻

デンマーク王立国語国文学会編
鈴木徹郎訳 東京書籍刊



童話作家として名前を知られている、アンデルセンは1805年、デンマークに生れ、1833年28歳でイタリアに旅行、ここを舞台として誕生したのが小説「即興詩人」で、彼の出世作となった。1839年から数年にわたって「絵のない絵本」が、発表され、これは第一夜から第三十三夜までの小品で、1955年、デンマークの女流画家マーリー・ブランネによって、三十三夜すべてにさし絵が描かれた。この他に童話は30数年にわたって書き続けられ、その数は130編以上と言われる。

内容

- 1：序論・徒歩旅行・影絵
- 2：即興詩人
- 3：O.T.
- 4：ただのヴァイオリン弾き
- 5：絵のない絵本・幸せもののピーア
- 6：一詩人のバザール
- 7：二人の男爵夫人
- 8：スウェーデン紀行・ディケンズ訪問記・ポルトガル紀行
- 9：生きるべきか死ぬべきか
- 10：スペイン紀行

(※3F開架図書コーナーにあります。)



新着図書(選)－経済

- 経済システムと情報経済 —マイクロ経済の原理—
武村昌介著 森山書店
- 競争と独占の基礎理論 萩原稔著 同友館
- 地域パフォーマンスの研究 —甲賀地域経済の転換と軌跡— 宮永昌男編 京都 ミネルヴァ書房
- 地域経済活性化の道 〈地方の時代〉を実現する
山崎充著 有斐閣
- 入門国際経済 菅沼澄〔ほか〕共著 日本評論社
- 地球共同体の経済政策 —絶対的貧困とBHN開発戦略, 国際社会保障— 植松忠博著 成文堂
- 南北問題の現代的構造 本多健吉編著 日本評論社
- 資本主義経済の理論 —正統派経済学の再検討—
瀬岡吉彦著 京都 ミネルヴァ書房
- 経営行動科学辞典 小林末男編 高宮晋監修 創成社
- 中小企業の法律・施策用語小辞典 中小企業診断協会編 改訂版 同友館
- 経営経済学の源流 岡本人志著 森山書店
- 財閥の比較的研究 同志社大学科学研究所編 京都 ミネルヴァ書房
- 経営学基礎講義 伊藤淳巳 植村省三編著 第4版 中央経済社
- 住友商事の研究 ベスト・ワンの秘密 梅津和郎著 京都 晃洋書房
- 中小企業経営論 山本久義著 泉文堂
- 日本財閥経営史 6 日本経済新聞社
- 管理会計論 内田昌利, 鈴木一道著 森山書店
- ドキュメント転勤・出向命令 会社は何を考え, あなたはどう行動するか 関幸雄著 ダイアモンド社
- イギリス経営財務論 イギリス中小企業の財務管理 J.ベイツ, D.L.ホリー著 青山英男訳 白桃書房
- わかりやすい経営成績の見方・調べ方 井上英雄著 同信社
- 意思決定の財務情報分析 石塚博司〔ほか〕著 国元書房
- 付加価値アップの経営 松下高明著 同文館
- 応用問題財務管理練習帳 中山雅博著 同友館
- シュミレーション感覚の経営分析入門 一次に打つ手を数字で読む 意思決定のヒント75項— 山口裕康著 実務教育出版
- イギリス再建金本位制の研究 吉沢法生著 新評論
- 金融実務辞典 香川保一〔ほか〕編 新版 金融財政事情研究会
- 現代証券事典 日本証券経済研究所編 日本経済新聞社
- 債券先物取引と財務戦略 関要編著 金融財政事情研究会
- 現代日本の金融分析 —金融政策の理論と実証— 古川顕著 東洋経済新報社
- 米国中央銀行 The FED 暴かれた聖域 M.ニュートン著 佐藤栄二訳 東洋経済新報社
- 現代の銀行独占 銀行問題研究会編 新日本出版社
- 銀行と顧客のトラブル百科 金融財政事情研究会(発売・キンザイ)
- 現代の国際金融市場 挑戦!シティと国際資本 W.M.クラーク〔著〕 山中豊国訳 文眞堂
- 現代国際通貨論 村本孜著 有斐閣
- 国際金融危機 —銀行はいかに対応すべきか— W.R.クライン著 越智昭二監訳 金融財政事情研究会
- 保険経済の分析 須田暁著 2版 海文堂
- 公共経済分析 中島 巖著 三嶺書房
- 基本財政学 橋本徹〔ほか〕著 有斐閣
- 財政学 坂入長太郎著 第4改訂版 酒井書店
- イタリア財政学の発展と構造 日向寺純雄著 税務経理協会
- 日本の財政赤字構造 —中長期の実証規範分析— 井堀利宏著 東洋経済新報社
- 近代日本の軍事と財政 —海軍拡張をめぐる政策形成過程— 室山義正著 東京大学出版会
- 税制改革の視点 福田幸弘著 税務経理協会
- 地方財政の国際比較 宮本憲一編 頸草書房
- 演習統計概論 森田優三 久次智雄著 日本評論社
- 工業地域構造論 竹内淳彦著 大明堂

- 明治建白書集成 6 鶴巻孝雄編 色川大吉 我
部政男監修 筑摩書房
- 北海道民権史料集 永井秀夫編 札幌 北大図書
刊行会
- 戦争拡大の構図 日本軍の「仏印進駐」 吉沢南
著 青木書店
- 辛亥革命 中国近代化の道程 胡繩(ほか)著 安
藤彦太郎編訳 早稲田大学出版部
- メキシコと日本の間で 周辺の旅から 中岡哲郎
著 岩波書店
- ソフトウェア 未来潮流と先導集団 博報堂生
活総研究所著 日本能率協会
- 先進社会のイデオロギー ソシオ・ポリティクス
の冒険 藪野祐三著 京都 法律文化社
- ルソーとその時代の政治学 R.ドテラ著 西嶋法
友訳 福岡 九州大学出版会
- 現代日本の政党政治 保守支配と連合 福岡政行
著 東洋経済新報社
- 誰が閣将軍を倒したか 塩田潮著 文藝春秋
それでも田中角栄は不滅である 内海賢二著 講
談社
- 現代中国の政治と戦略 革命国家はこのまま「西
側化」するのか 中嶋嶺雄著 京都 PHP 研究
所
- 国家論のルネサンス 加藤哲郎著 青木書店
- 民主主義と国際主義 中原精一著 成文堂
- 日本選挙制度史 普通選挙法から公職選挙法まで
柚正夫著 福岡 九州大学出版会
- 自民党のドラマツルギー 一総裁選出と派閥一
田中善一郎著 東京大学出版会
- 行革論 新しい民主主義のために C.H.v.ブラー
テン著 清水泰子訳 文化書房博文社
- 地方自治と議会制 久礼義一著 啓文社
- 地方の王国 高島通敏著 潮出版社
- 人間が生きる自治体づくり 一「地方行革」と住
民一 統一労組懇自治体部会編著 角橋徹也監修
新日本出版社
- 地方自治辞典 丸山高満監修 新版 良書普及会
- 日米外交比較論 ハリソン・M・ホーランド著 慶
應通信
- 対日講和と冷戦 一戦後日米関係の形成一 五十
嵐武士著 東大出版会
- ローズヴェルト外交序説 谷茂樹著 文化書房博
文社
- 軍縮と平和の論理 杉江栄一著 京都 法律文化
社
- 西洋中世都市の自由と自治 林 毅著 敬文堂
- ポーランドにおける法と道徳 アントニ・コシチ
著 名古屋 名古屋大学出版会
- 現代の憲法問題と改正論 竹花光範著 成文堂
- 行政の法理 雄川一郎著 有斐閣
- 民法雑考 附・借地借家法原理 安田幹太著 福
岡 九州大学出版会
- 民法提要 松坂佐一著 第4版・増訂 有斐閣
- 民法総則 四宮和夫著 第4版 弘文堂
- 借地権 米山鈞一著 7訂版 税務経理協会
- 注解会社法 上 戸田修三(ほか)編 青林書院
- 刑法概説 総論 大塚仁著 改訂版 有斐閣
- 比較犯罪学 B.ホワイト著 中山研一監訳 成文
堂
- 犯罪論の基本問題 大塚仁著 有斐閣
- 青木英五郎著作集 1-3 青木英五郎著作集刊
行委員会編 田畑書店
- 裁判実務大系 7 青林書院
- 治安維持法下の弁護士活動 青柳盛雄著 新日本
出版社
- 所得税の知識 一実務に直結・やさしい解説一
61年度版 諸越秀男著 税務経理協会
- 法人税の基礎知識 田代茂著 3訂版 ぎょうせい
- 要説法人税法 61年度版 渡辺淑夫著 税務経理
協会
- 要説相続税法 昭和61年度版 石田八郎著 税務
経理協会
- 要説住民税 昭和61年度版 税務経理協会
- 権力 N.ルーマン著 長岡克行訳 勁草書房
- 韓国の民衆運動 和田春樹、梶村秀樹編 勁草書
房
- 福祉国家と社会主義 中村宏著 京都 法律文化
社

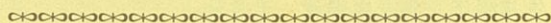
新着図書(選)－工学

- NHK地球大紀行 1～5 日本放送協会(NHK)取材班編 日本放送出版協会
- 見る地震 笠原順三, 田中一実著 東京大学出版会
- 沿岸域の保全と開発 ー環境管理のための生態学的アプローチー J.クラーク著 林亨監修 思考社
- ハイテク時代の知的戦略 ー技術開発に活かす特許の知識ー 青山紘一著 工業調査会
- 科学技術情報ハンドブック 日本科学技術情報センター編 日本科学技術情報センター
- 新素材・新材料のすべて ーこれだけは知っておきたいー 工業材料編集部編 日刊工業新聞社
- パソコンTQC BASICによる総合的品質管理入門 門司親信, 服部威著 大河出版
- 都市計画・建築法規のドッキング講座 高木任之著 全国加除法令出版
- わかりやすい地盤地質学 池田俊雄著 鹿島出版会
- 特殊水中コンクリート・マニュアル ー設計・施工ー 沿岸開発技術研究センター編 (同編者)
- 西洋の都市 ーその歴史と類型ー W.ブラウンフェルス著 日高健一訳 丸善
- 測量学2 松井啓之輔著 共立出版
- 特殊生物処理法 洞沢勇編著 上原義昭〔ほか〕共著 思考社
- 生物膜法 洞沢勇編著 思考社
- 図解道路用語事典 鈴木道雄編 山海堂
- 図解測量用語事典 田島稔編 山海堂
- 図解橋梁用語事典 佐伯彰一編 山海堂
- 図解一般土木用語事典 山村和也編 山海堂
- 図解河川・ダム・砂防用語事典 土屋昭彦編 山海堂
- 日本の木組 清家清著 淡交社
- 町家の茶室 中村利則著 淡交社
- 様式創造の試み ー建築文化論と保存の図集ー 松村貞次郎編著
- イラスト建築防火 たかぎ ただゆき著 全国加除法令出版
- 建築設計講座 理工図書
- 空間 時間 建築1, 2 S.Giedion 著 太田實訳 新版 丸善
- 建築NOTE 丸善
- 日本人のすまい ー住居と生活の歴史ー 稲葉和也, 中山繁住著 彰国社
- 数寄の工匠 ー京都 中村昌生編 京都 淡交社
- ジオ・ボンティ作品集 1891ー1979 西武美術館, 鹿島出版会編 鹿島出版会
- 一, 二級建築施工管理技術士 ー法規ー 柳沢定助著 井上書院
- 建築空間論 上松佑二著 早稲田大学出版部
- 建築設備の耐久性向上技術 建築保全センター編 オーム社
- 積木の家× ー発想から完成までー 相田武文著 丸善
- 二級建築士設計製図課題を解く 土田裕康著 理工図書
- 現代制御工学 動的システムの解析と制御 嘉納秀明著 日刊工業新聞社
- 日本のコンピュータの歴史 情報処理学会歴史特別委員会編 オーム社
- プログラミング・セミナー 寛 捷彦〔ほか〕著 共立出版
- バイオコンピュータ ー生命とエレクトロニクスの結合による超テクノロジーー 神沼二真著 日本経営協会
- マイコン人工知能 J.クラッチ著 大島邦夫訳 共立出版
- パソコンPascalプログラミング 永瀬輝男著 東海大学出版会
- 人工知能への挑戦 ー“考えるマシン”はどこまで可能かー F.ローズ著 栗田昭平監訳 ダイアモンド社
- わび 水尾比呂志著 淡交社
- 韓国の古美術 大韓民国文化公報部文化財管理局編著 淡交社
- 茶室 林忠彦著 婦人画報社

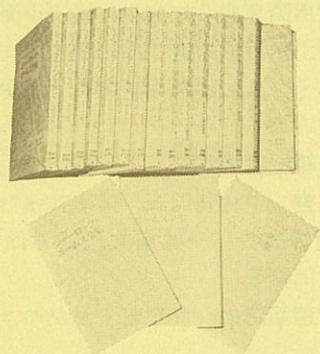
新着図書(選)－教養

文部省百科全書 1～23 文部省編 青史社
 岩波写真文庫新風土記 全5巻
 勝見勝著作集(全5巻) 講談社
 心理学要論 麦島文夫〔ほか〕著 新版 有斐閣
 母子関係の理論(全3巻) J.ボウルビィ著 黒田
 実郎〔ほか〕訳 岩崎学術出版
 世界の神話 全10巻 筑摩書房
 世界の大遺跡 2～3, 5～6, 12 江上波夫監
 修 講談社
 世界考古学大図典 C.フロン編 田辺勝美監訳
 京都 同朋舎出版
 歴史のなかの都市 一統都市の社会史一 中村賢
 二郎編 京都 ミネルヴァ書房
 海外視点・日本の歴史 全15巻 日本アートセン
 ター編 ぎょうせい
 日本の社会史1, 4～5, 7～8 岩波書店
 大正ニュース事典 1, 2 大正ニュース事典編
 纂委員会編 毎日コミュニケーションズ
 ドキュメント昭和 一世界への登場一 全9巻
 日本放送協会“ドキュメント昭和”取材班編 角
 川書店
 東洋歴史大辞典 全3巻 縮刷 京都 臨川書店
 東南アジアの展望 松本三郎 福永安祥編 新版
 勁草書房
 現代日本人物事典 20世紀 Who's who 旺文社
 編 旺文社
 実業家百傑伝 1, 2 坪谷善四郎著〔復刻版〕
 立体社
 ライフ地球再発見(全15巻) タイムライフブッ
 クス編集部編 西武タイム
 鉄道歳時記 1～5 相賀徹夫編 小学館
 日本の社会学 一リーディングス一 3～8, 10,
 12～14, 16, 19～20 東京大学出版会
 パンとサーカス 社会衰退としてのマス・カルチ
 ュア論 P.ブランドリンガー著 小池和子訳 勁
 草書房
 変貌する地方都市 一港まち敦賀市の歴史的研究
 一 大道安次郎著 恒星社厚生閣
 日本人の人種観 家坂和之著 新版 弘文堂
 学習と教授の心理学 山内光哉編著 第2版 福

岡 九州大学出版会
 日本の食生活全集 1～3, 5, 8, 15, 18, 20,
 22, 24, 26, 30, 39～43 農山漁村文化協会
 歴史的にみたドイツ民謡 武田昭著 東洋出版
 図説陸の自衛隊 小川和久著 講談社
 交通経営の立地 J.クリンク〔著〕 山上徹訳 大
 明堂
 高度情報社会要覧 通産規格協会編(同編者)
 芸術と装飾 山本正男監修 玉川大学出版部
 現代美術の流れ 1945年以後の美術運動 エドワ
 ード・ルーシー＝スミス著 岡田隆彦, 水沢勉訳
 パルコ出版
 メトロポリタン美術全集 1～9, 11 メトロポ
 リタン美術館原著 岡山 福武書店
 20世紀日本の美術 一アート・ギャラリー・ジャ
 パン一 1～2, 4～6, 8, 10～12, 16, 17 富
 山秀男, 弦田平八郎編 河北倫明監修 集英社
 現代世界の美術 一アート・ギャラリー 全21巻
 中山公男〔ほか〕編 集英社
 北限の石仏たち 山川力著 朱鳥書屋
 日本写真全集 1～9, 11 小学館
 カラー・イメージ感覚 小林重順著 講談社
 色の手帖一色見本と文献例とでつづる色名ガイド
 一 尚学図書編 小学館
 音楽大事典 1～6 岸辺成雄〔ほか〕編 平凡社
 人間と音楽の歴史 全20巻 音楽之友社



シャーロック・ホームズ全集 東京図書刊



(※3F開架図書コーナーにあります)

- AI (Artificial intelligence) ジャーナル 9 : 1987+ / 朝日大学経営学論集 1巻1号 : 昭62+ / **Better storage** (日本ファイリング) 17 (1-7) (93-99) : 1987 / 1-7+ / 地域研究 11-15 : 1968-1971 ; 13-20 (16-29) : 1972-1979, 23-28 (35-45) : 1982-1987+ / 中京大学体育研究所紀要 豊田 創刊号 : 1987+ / 同朋大学紀要 1 : 1987+ / 白鷗大学編集 小山市 1 : 昭62+ / 北海道立中央農業試験場年報 昭61+ / 法律実務研究 1 : (1986) - 2 (1987) + / IBM レビュー 101 : 1987+ / 神奈川大学評論 1 : 1987+ / [慶応義塾大学大学院] 三田経済学研究 33-34 : 1986+ / [慶応義塾大学] 哲学 83 : 1986+ / 神戸学院大学法学研究叢書 1 : 1987+ / 神戸学院大学経済学研究双書 1 : 1987+ / [神戸学院大学] 人間科学研究双書 1 : 1987+ / 国立国会図書館 図書館協力通信 1-3 : 1987 / 5+ / 国際基督教大学図書館公開講演集 1 : 1985+ / 駒沢大学 北海道教養部論集 1 : 1986+ / [熊本大学] 国語国文研究と教育 16-17 : 1986+ / 前田一步園財団調査研究報告 阿寒町 1 : 昭62+ / [日本福祉大学] 社会科学研究所年報 創刊号 : 1986+ / [二松学舎大学] 大学院紀要 二松 1 : 1987+ / [大阪外国語大学] **Sprache und Kultur** 20 : 1987+ / 大阪明浄女子短期大学研究 1 : 昭61+ / 龍谷大学大学院研究紀要 社会科学 1 : 1987+ / 聖マリアンナ医科大学紀要 一般教育 16巻(1-2) : 昭62 / 3-7+ / 専修大学法学研究所所報 2 : 1987+ / [帝京大学経済研究所] 研究資料 八王子 ; 1 : 1987 / 3+ / [東京音楽大学] 研究紀要 11 : 1986+ / [早稲田大学大学院] 哲学世界 9-10 : 1986-1987+ / 横浜市立大学紀要 自然科学 1 : 1986+ / **Academy of Management executive**. New York. 1 : 1987+ / **Accounting, organizations and society**. Oxford. 12 : 1987+ / **ACT (American Concrete Institute) materials Journal**. 84 (2) : 1987 / 3+ / **Appalachian Journal: a regional studies review**. Boone, N. C. 14 : 1986+ / **Asian Pacific regional trade law seminar** (Australia, Attorney General's Department.) Buffalo 11 : 1987 / **Canadian journal of sociology**. Edmonton, Alberta. 12 (1) : 1987+ / **Decision support systems: the international journal**. Amsterdam. 3 (1) : 1987+ / **Deutsche Richterzeitung** Köln 29-58 : 1951-1980, 64 : 1986+ / **Der Gegen-Angriff: Antifachistische Zeitschrift**. Prag. 1-4 : 1933-1936 [Reprint Leipzig, 1982] / **Hiroshima University, Research Institute for Higher Education, International Publication series**. Hiroshima 1 : 1987+ / **International journal of sports medicine**. Stuttgart & New York. 8 : 1987+ / **International trade law seminar**. (Australian Academy of Science.) Canberra : 1 (1974) - 10 (1983) 1-10 : 1974-1983 / **Jahrbuch der Bodenreform**. (Hrsg. von A. Damaschke) Jena : 1-38 : 1905-1942 / **The Japan economic journal**. Tokyo : Nihon Keizai Shinbun 25 (1255) : 1987 / 4+ / **Journal of cold regions engineering**. (American Society of Civil Engineers, Technical Council on Cold Regions engineering.) 1 : 1987+ / **Journal du droit international**, 42-65 : 1915-1938 / **Journal du droit international privé**. 1-41 : 1874-1914 / **Journal of marketing research**. (American Marketing Association) Ann Arbor, Mich. 24 (1987) + / **Mathematical programming**. Amsterdam. 37-38 : 1987+ / **Mountain life & work: the magazine of the appalachian south**. Clintwood, Ga. 63 : 1987+ / **National strength & conditioning association journal**. Lincoln, N. E. 9 : 1987+ / **New Technology, work and employment**. Oxford : 2 : 1987+ / **Organization studies**. Berlin. 8 : 1987+ / **Poétique: revue de théorie et d'analyse littéraires**. Paris. 69 : 1987+

近代探偵小説の確立者といわれるコナン・ドイル（Sir Arthur Conan Doyle, 1859—1930）はホームズとワトスンという2人の人物を生み出した。かれらが主人公となるシャーロック・ホームズ物語は聖書に次いで世界の老若男女に広く読まれているという。今年は、ホームズが『緋色の研究』（1887）で初めて登場してからちょうど百周年にあたる。

われわれが愛してやまない「若き日のシャーロック・ホームズは1877年の春、ケンブリッジ大学をあとにしてロンドンに向った。ロンドンはちょっと角を曲がると大英博物館があるモンタギュー街に住みついた」（『シャーロック・ホームズ』W. S.ベアリング=グールド、1962）。この当時の模様を、ホームズは『マズグレーヴの儀式』（1893）のなかでつぎのように話している。

最初ロンドンへ出てきた時はモンタギュー街の大英博物館の角を曲ったところに間借りして、おそろしく退屈な時間を、将来役にたちそうな学問をうんと手びろく勉強して潰していたもんだ。

ホームズは1877年に世界で初めての私立探偵事務所を開いたが、3年間というものはほとんど事件解決の依頼もなく、この間、大英博物館の円型閲覧室に通い、のちにワトスンに舌を巻かせるほどの、犯罪の文献についての知識を得たのである。

ホームズが通った頃の大英博物館は自然科学部門の移転・館員給与の改善・英国図書館協会の設立など館界に多大の貢献をした第7代館長ウインター・ジョーンズが病にたおれ、第8代館長エド

ワード・ボンドが就任した時期である。ボンド館長はまず第一に、館内外の反対を押しきって電燈を導入した。ひとたび電燈が設置されるや、利用面に大きな変化が生じた。霧の日でも閲覧室を閉鎖することはなくなり、開館時間は冬でも午後8時まで可能となった。利用者も激増して、年間平均20万人を記録した。

ある日、いつもの閲覧室でホームズが読書をしていると、隣りにいた立派な茶色のひげをつけ太った男は、ランカシア州地方の綿工業に従事する労働者のきわめて低い賃金と、それに反する膨大な会社の利益についての統計を調べていたが、ホームズが変った本を読んでいるのに気がついて、ひどいドイツ訛りで話しかけてきた。「あなたは暗殺に関心をおもちのようですね」（前出『シャーロック・ホームズ』）。

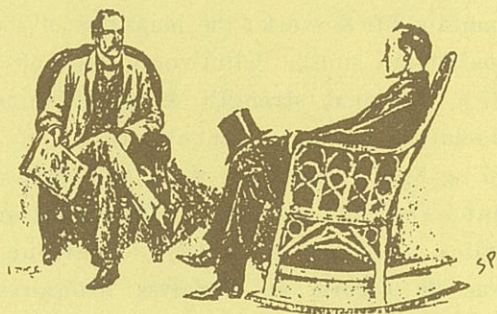
さて、ここで謎解きを1つ。大英博物館の閲覧室でホームズに話しかけてきたのは誰か？

ホームズをめぐる2つの文章は、彼の生涯を描いた架空の伝記の一節である。しかし、今でもロンドンのベーカー街221番地Bにあてて探偵依頼の手紙が届くという。ホームズが実在の人物だと信じている人がいるからである。

ホームズ探偵譚はわが国では青少年の読みものと思われがちだが、欧米とりわけイギリスでは著名な学者・政治家・経営者にこよなく愛されている。シャーロキアンならずとも『チップス先生さようなら』（J.ヒルトン、1934）のチップス先生と同じように、探偵小説が並んだ本棚にかこまれて、ヴィクトリア朝時代のロンドンに想いを馳せるのも楽しいことである。

（いずみだ・まさひろ 本学事務部長）

ワトスン(左)とホームズ(右)



開館時間

本館	工学部分室
9:30~20:00 (月~金)	9:30~17:00 (月~金)
9:30~18:00 (土)	9:30~13:00 (土)

日曜祝日、創立記念日は休館いたします。

北海学園大学 図書館だより

附属図書館報 Vol. 9 No. 3 (通巻 103号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
 工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
 (011)841-1161 本館内線 270-275・279
 工学部内線 813・814